中東山

高知県香美市と徳島県那賀町にまたがるこの山は、尾根沿いにブナの天然林が広がりツキノワグマの生息地域でもある。
奥深く、そしてどこまでも静かな山だ。
ブナの樹間から見えるのは広大無限に連らなる山.山.山。
四国の中で、最も人の気配が感じられない秘境ルートのひとつだ。

高ノ瀬分岐へ

高ノ瀬分岐～石立山 約7km。

昭和30年ごろまでは物部村別府から奥東谷を詰めて稜線に出て剣山に通じる道があった。
徳島側でミツマタを栽培しており別府の人たちは山道を行き来して運搬し、別府からは森林軌道を利用して土佐まで出荷していたという。
(吉井さんに教えてもらう)

物部川源流

渡渉

カツラ

石ゴロゴロ

大岩

林道終点から中東山まで約2.5km。2時間くらいの行程。

一帯は剣山国定公園

普.土佐営林署の別府製品事業所がこの山域を伐採していた。
中には大人が寝ころべるくらいの大きなツガの切り株もあった。
あまりにも重いので2mに採材して搬出することもあったという。
(田村さん庚信さんに教えてもらう)

終点

登山口

地表の浸食や小崩壊が目立つ

天然林の尾根

落石多い

大坂林道63線

倒木多い

モミ立枯目立つ

○ゲートから終点まで約2.6km。

ブナ.ツガ ハリモミや天ヒノキ

浸食が始まっている。近い将来崩壊の危険

シカネット

沢

高ノ瀬渓
剣山の南麓にある深いV字型渓谷は四国を代表する紅葉の名所。
日本の紅葉百選にも選定され、奇岩.絶壁にも恵まれる。
別府渓も同じく日本の紅葉百選。
この二大渓にはさまれる中東山。

ジル沢谷

道不明瞭

剣山スーパー林道が眼下に見える

大正から昭和初期にかけて国有林と民有林の境界に石の標識を設置するため、ここを基地として山泊し、石を刻み石標を作り、この剣山の尾根に立てるために働いていた人たちがいた。
(吉井さんに教えてもらう)

パワースポットみたいな巨石と湿地

スゲ

岩と岩

古い標識 テープの目印

治平谷の大崩壊

足元から斜面が切れ落ち裾野まで砂と岩石の荒地に小雪がとまる景色を見るのぞき込めば足がすくむ。
江戸時代に発生した大崩壊と伝わる。

高ノ瀬分岐から中東山～石立山の稜線はかつて背丈をこえるスズタケが密生して、山地図にも「注 熟達者コース」と記された難コースだった。
記録によれば森林管理署が平成12年(2000)にこの尖を刈りはいいとても歩きやすくなったとある。

石立山

源氏ヶ森

口西山方面

中東山

ブナの尾根

最低鞍部

新九郎山から臨む中東山 2023.11.22

湿地

スズタケは北海道から九州にかけて太平洋側の山地に広く分布する。
イネ科に属するササや竹の一生は数十年から100年～120年とても長い。
スズタケは120年に一度といわれる花を咲かせたあと、夏に実を付け、ぱらぱらと地面に実を落とした後、一斉に枯れていく。
落ちた実は動物のごちそうとなり、残った実が芽を出して再生していく。

中東山付近から眺める石立山は名前のとおり三角錐に立ちはだかって見える。

西 白髪山や御佐流山
南西 源氏ヶ森

中東山

ブナの森を冬に歩くと葉っぱを落とした枝先までまるで毛細血管みたいな神秘的な姿がよく見える。

少年ノウグマの糞と足跡らしきもの目撃 2023.11.17

旧物部村別府から旧木頭村治平谷へ越える道が昭和中期頃まで使いていて、別府の人たちは治平谷周辺で栽培したミツマタを肩に担いでこの尾根を越えていたという。

海が見える

急傾斜

今このコースにはスズタケはまったくない。
新しい芽をニホンジカが食べるのか、それともまだ芽を出さずじっとその時を待っているのか。

急傾斜
登り返しはキツイ

「ササの花が咲いたら不吉なことが起こるといわれ「らんまん」でも関東大震災が描かれていた(1923年)
牧野博士もスズタケの花を研究しており和歌山県で実を付けた穂を標本にしている。
ササの花.竹の花には謎がいっぱい。
スズタケも不思議に満ちている。

見わたせる限り八方無限に山並みが続く

次郎笈の西側の姿どこから見てもかっこいい。
新九郎山も見える。

静かで穏やかな山につつまれる。

中東山 1688m
Nakahigashiyama

ツキノワグマとの不用意な遭遇を避けるためにも、鈴やラジオなど音の出るものを持って人間の存在を知らせるようにしたい。

標識がある「治平谷.高ノ瀬」「中東山-石立山」

ブナの落ち葉をサクサクと踏みながら歩く。
樹種によって落ち葉を踏む音も変わる。

ブナの巨木がずらりと並ぶ まるで五百羅漢みたいだ

平らな尾根

中東山周辺一帯は四国山地緑の回廊剣山地区に指定されている。

四国のツキノワグマは世界で最も小さい島に暮らしているクマで、現在20数頭しか生息しておらず、2036年には絶滅の危険性が63%にも高まっている。
自然界の中で一つの生き物が絶滅するということは自然のなりたちの中で取り返しのつかない衝撃となって自然界のバランスが崩れてしまう。
四国のツキノワグマを守り共存していくことはとても大切なことだ。

このあたりのヒノキ大木のウロで昭和61年2月9日別府の猟師がツキノワグマの雌一頭を獲った。
これが四国で最後の獲物となった。
「木の子守歌が聴こえる」に当時の写真が載っている。

最低鞍部

一本道

口東へ続く歩道
(野々原さんに教えてもらう)

石立山へ

NO.141
2024.1.15